



# かみのせき 議会だより

2024  
2/20

No.165



## 龍の如く昇る朝日

### 令和5年12月定例会

議案	2ページ	水道事業の統合案	13ページ
質疑応答・臨時議会	3～4ページ	視察研修報告	14ページ
常任委員会	5～6ページ	議長あいさつ・議会日誌	15ページ
一般質問	7～8ページ	広報委員会研修	16ページ
討論・他	9～12ページ	陳情・要望・編集後記	

## 12月定例会

12月定例会は、12月6日から13日までの8日間の会期で開催。条例の制定2件、令和5年度一般会計および特別会計の補正予算6件、追加議案2件は原案のとおり可決されました。

### 議案

◆上関町基金設置条例の一部を改正する条例の制定

・上関町診療所施設設計基金・上関町総合計画策定基金を設置するため。

◆上関町八島く上関間航路運行条例の一部を改正する条例の制定

・貨物運賃表に品目を追加するため。

◆令和5年度一般会計補正予算(第4号)

・4983万9000円を追加し、歳入歳出予算の総額を34億9987万8000円とする。

・主な歳入

国庫補助金では、新型コロナウイルス関係の地方創生臨時交付金および中間貯蔵施設の調査に係る電源立地地域対策交付金などの増、県補助金では、離島航路補助金の確定による減、および広報・調査等交付金の減、公共施設建設基金繰入金等の増、過疎対策事業債等の減。

・主な歳出

総務費の総合計画策定基金積立金等の増、新型コロナウイルス子育て応援支援金や道の駅及び鳩子の湯に対する光熱費等高騰対策支援金の増、上関福祉会運営費補助金の増、診療所施設設計基金積立金の増に伴う財源振替のため設計委託料の減、旧中央公民館の解体工事の減。

◆令和5年度介護保険特別会計補正予算(第3号)

・保険事業勘定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ153万9000円を追加し、予算の総額を6億2936万6000円とする。

◆令和5年度上関町診療所事業特別会計補正予算(第3号)

・歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ7万6000円を追加し予算の総額を6307万7000円とする。

◆令和5年度上関町へき地診療所事業特別会計補正予算(第3号)

・歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ79万2000円を追加し予算の総額を6124万3000円とする。

◆令和5年度上関町簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)について

・歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ6万円を追加し、予算の総額を1億4773万5000円とする。

◆令和5年度上関町漁業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

・歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ20万円を追加し、予算の総額を1853万6000円とする。

### 追加議案

◆上関町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定

・地方税法等の一部改正により産前産後期間の被保険者に係る国民健康保険税を減額する必要が生じたため。

◆令和5年度上関町一般会計補正予算(第5号)

3677万2000円を追加し、総額35億3665万円とする。

・物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が3677万2000円交付されることに伴い、低所得者世帯の支援として1世帯当たり7万円の給付を行う。

山戸孝 議員

中間貯蔵施設に対する新たな交付金のための基金の設置か。

坪金 企画財政課長

電源立地地域対策交付金を活用するための基金の設置。

山戸孝 議員

診療所の設計と総合計画の策定は、必要な事業と理解するが交付金を使って基金を設置するのか。

坪金 企画財政課長

診療所の解体・設計を2か年で実施するため基金を設置。総合計画も2か年で実施するため基金を設置。

山戸孝 議員

診療所費の工事請負費だが、過疎債から中間貯蔵施設の交付金に財源振替されている。原子力財源を活用することで、住民の分断を招きかねないという懸

念があるが。次に商工費の企業調査費で、発電所建設計画の交付金から中間貯蔵施設に係る交付金に付け替えている。当初の発電所建設計画の交付金では無理があったのか。職員については、前回の補正予算どおり中間貯蔵施設の交付金は使われてない。職員は従来そのまま、住民の視察は、新たに中間貯蔵施設の交付金で財源を2つに分けているが。

西 町長

診療所費は、過疎債から中間貯蔵施設交付金に組み替えた。有利な財源を活用し、これ以上借金を増やしたくない。蒲井の高齢者施設も原子力財源を利用しているが、反対の方も入所し利用している。町の立場も理解してほしい。

坪金 企画財政課長

今回、中間貯蔵に係る交付金が交付されるので有効活用し財源振り替えした。職員の研修費は、当初予算で予定していた議

員研修がないので、余剰財源が出たので、有効活用し財源振り替えした。県からの広報調査等交付金は、実績が申請した金額に満たない場合は、今後減額になると聞いている。

橋本 副町長

診療所の設計と旧中央公民館の解体基金に財源振り替えしたもの。まだ調査の段階だが国から1億4000万円出るため、それを有効活用するもの。

山戸孝 議員

1億4000万円の交付金は、県と町とで配分されるが村岡知事は、その予算を使わないと明言している。財源を使うことが容認と結びつくのではないかという懸念があった判断ではないか。

橋本 副町長

中間貯蔵の交付金は最大1億4000万円で県と町との配分になる。現在原子力関係の国からの初期対策交付金が、年間8

000万円で、町が7800万円で県が200万円受け取っている。

西 町長

知事の考えがあつて受け取らなかつたのであろう。町はこの交付金を有効活用し、住民のために財政の硬直化を少しでも防いで、財源振り替えでほかのところにも活用できるように今回予算計上した。この財源以外に何の財源があるのか代替え案を示していただいて議論したい。

清水康博 議員

過疎債は、借金ではあるが充当率10割で7割が普通交付税で返ってくる有益な借金。今回交付金を5000万円充てていてこの5000万円を過疎債に充てた場合、実質町の負担は1500万円となる。3500万円を別の事業に充てることができたとと思うが、十分検討しての判断か。また今回の交付金の使用用途だが、財源振り替えになっているがほかに新事業に充てる

案はなかったのか。

橋本 副町長

過疎債は、元金と利子の7割が交付税措置されるが、3割は町の負担。活用できる財源としてより有効な方を使うのは当然。今年に限っては、年度途中で予算の執行もしている段階。交付決定後に行なわれる事業が対象となるので、期間も短いことから新事業に充てることはできない。

清水康博 議員

調査を受け入れた時点で、その年度から交付金が下りるのは承知していたと思う。ビジョンがあれば、その時点で新事業に使うのも見えていたのではないか。今回ほとんどの財源を財源振り替えて充てていることに對して疑問を持つ。

橋本 副町長

先に交付金の事業の見通しを立てるのは不可能。交付決定が下りたのは10月31日。それから

どういう事業に充てるかを、その前後で検討していた。8月18日の受け入れの時点ではまだ検討していなかった。

秋山鈴明 議員

現在の海のまち診療所の患者数と新たに設計するに当たり想定している患者数および耐用年数、使用年数が協議されていれば教えてほしい。

大西 保健福祉課長

各部署を通じて想定面積、部屋数、高さ、階数また、非木造にするか、木造にするか、現在協議中。一日の患者数は、平均16・5人、コロナやインフルエンザ等も考え待機所なども協議中。

秋山鈴明 議員

今後人口減少が予測される。人口減に伴い財政規模を住民の合意を得ながら縮小していくのが最重要課題と言っている状況。現在の海のまち診療所を基準にしていると思うが、数十年単位

の設備だと思う、数十年後の人口ビジョンを出した上で、あくまで現在の人口・面積などで設計を進めているのか、まだ協議中なのか。

西 町長

今議会は、予算について提案している。予算が通った上で、設計ができれば議会に報告し意見を伺う。予算も通ってない状態で先走って私から言うのは不適切と思う。

古泉直紀 議員

オンライン資格関係等補助金で、マイナンバーカード資格器具となっているが、顔認証だけでも認証できるという形で対応ができるのか。

大西 保健福祉課長

まだ詳細については、報告がないが、国から補助金が下りると聞いている。

山戸孝 議員

物価高騰対応支給給付金につ

いて、年内の給付が難しい自治体もあると聞くが、給付の形とタイミングは。

大西 保健福祉課長

前回6月に3万円の給付があったが、プッシュ式で実施した。今回も前回と同じ口座に振り込む予定で、最短で2月初旬を考えている。



新しく設置されたマイナタッチ

## 第2回臨時会

11月24日に招集され、上関町一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正、上関町会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部改正、令和5年度上関町一般会計および特別会計補正予算が上程され原案のとおり可決された。

# 産業厚生常任委員会

## 厚生関係

- 問** 上関福祉会運営補助金の内訳は。この時期の補正は老朽化で緊急に必要ということか。
- 答** 内訳は施設の老朽化に伴う補修や車の購入などの経費、かみのせき苑特養と上関町デイサービスの赤字など。また5、6月にRSウイルスという風邪が施設内で流行り利用者の入院が増加し、施設の利用がなく減収になったため必要となった。
- 問** 児童福祉費の感染症対策のための改修整備は、保育園のおむつ処理のための改修と説明があったが、町内2か所の保育園ということか。
- 答** 2つの園それぞれに設置。おむつ処理全般に係るゴミステーションの整備事業を進めたい。
- 問** 診療所費の設計委託料と工事請負費の減額の内容は。
- 答** 設計委託料については当初予算では概算で金額を計上していたが、今回、より詳しく設計見積もりをしたため。工事請負費については実際に解体事業をするのが令和6年度になる予定のため。なお財源が過疎債から電源立地地域対策交付金になっている理由は、より有利な財源を活用するため。
- 問** 過疎債を減額しているが、すでに支出された分は一般会計から捻出するということか。
- 答** 契約が済んでいて電源立地地域対策交付金を充当できないので、過疎債を外して一般財源で組むことになった。
- 問** 中間貯蔵施設に係る電源立地地域対策金を基金にした理由は。なぜ来年度使われるだろうものをわざわざ基金にしなければならなかったのか。
- 答** 診療所の設計も中央公民館の解体も今年度で事業を完成できないため。まず入札して契約までを今年度行う。令和5年度と6年度にまたがって事業をやるということで、今年度は全額を基金に積みたい。
- 問** 基金というのはただ単に今年度と来年度をまたぐためだけのものなのか。それ以降は使える基金ではないという考えでよいか。

- 答** その通り。中間貯蔵施設に係る電源交付金は最大1.4億円の上限がある。交付決定の11月末以降に始まる事業しか対象にならない。まだ執行していない診療所の設計費、旧中央公民館の解体費、総合計画の策定費、東海第二発電所への現地視察、この4点を申請した。
- 問** 今回の電源交付金について上限1.4億円の約半額の7400万円を申請しているが、残りはどうなるのか。
- 答** 交付決定が12月であること、ハード事業は対象にならずソフト事業のみ対象であること、ソフト事業も予算執行しているものが多いことなどから、残りは流すことになる。
- 問** 白井田診療所の後期高齢者医療診療収入と医薬材料費が増となっているが、患者が増えたということか。
- 答** 令和4年度から医師派遣の状況が変わったため、昨年度、今年度と受診者が増えている。

## 産業関係

- 問** 花づくりサポーターの活動日数の減ということだが、要因と活動内容は。
- 答** 当初の予定より活動開始が遅れ、また梅雨時期の雨や夏の猛暑などにより活動日数が大幅に減った。活動内容は、町の所有する花壇の管理や花に関するイベントの補佐業務が主なもの。
- 問** 花咲く海のまち推進事業費の需用費だが、消耗品費増の内容は。
- 答** 肥料や堆肥の価格高騰や、花づくりパートナーが約40名から80名に増えたこと、上盛山展望台周辺などのスイセンの植え付け面積が増えたことによる球根や肥料などの購入金額の増。



花づくりパートナーが管理する花壇（白井田）

# 総務文教常任委員会

## 総務関係

**問** 財政管理費、積立金は9月議会で公共施設建設基金の5千万円を、ふるさと振興基金に移し替えたと認識している。振興基金に積んだ5千万円を新たに3千万円減額する理由は。

**答** 9月の補正予算において、余剰財源が生じ、歳入で公共施設建設基金の繰り入れを5千万円減額、歳出でふるさと振興基金の追加の積立として5千万円程計上。12月の補正で全体的に財源不足が生じ、ふるさと振興基金を3千万円程減額。

**問** 企画費、積立金の1765万5000円総合企画策定基金で全体の総額は。

**答** 総額は1765万5000円。5年度11月に実施したアンケート調査分析業務委託料82万5000円。6年度の総合計画計画書の策定1683万円を合算して1765万5000円。

**問** 9月議会に広報・調査等交付金900万8000円だったのが初期対策交付金になった経緯は。

**答** 9月で広報・調査の方で組んだが、その後新たに中間貯蔵施設に係る初期対策交付金の予算で旅費などを組み替えた。

**問** 広報・調査交付金を戻した理由は。

**答** 広報・調査交付金は原子力発電所を必ず見に行かなくてはならないものだが、中間貯蔵施設に係る初期対策交付金は、その縛りがなく、中間貯蔵施設だけを見に行くことも問題ない。

**問** 電子計算費の基幹系システム標準化対応委託料が出されたタイミングで予算化されたのか。

**答** これは国の予算が付いたので今回の補正に計上した。令和6年度についても当初予算で5千万円を見込んでいる。

**問** 総合計画の住民アンケートの回収率は。

**答** 現在、回収率が出せる状態ではないが、件数は250件程度で、もう少し増える。

**問** 第6次総合計画を策定していくなかで、第5次の検証する予定はあるのか。

**答** 第5次の検証は、今後策定にあたって今まで

の計画に対してどのような効果があったかという部分について行っていく。

**問** 空き家等管理活用支援法人の指定を上関町はどう考えているのか。

**答** 空き家等管理支援法は12月13日スタートで、ほかの自治体の活用状況を見て、わが町に合うか見定める。

## 文教関係

**問** 11月3日に愛・ランドフェアと一緒にかみのせき學苑祭が行われ、大変好評だった。今年はエコバッグやひじきを使った特産物などの販売が行われた。これからも続ける計画はあるのか。

**答** 営利目的ではないので、単年での販売。総合的な学習の中で商品開発を継続していく視点で、学習の方につなげたい。

**問** 部活動の地域移行について進捗状況は。

**答** 先月部活動説明会を行った。説明会の状況、今後のことについて来週に会を持つ。

**問** 教職員向けの研修会で、今後は平生、田布施3町で連携を深めるとあったが具体的な連携の予定はあるのか。

**答** 3町で、部活動の推進についての情報交換会は2回行っている。3町がどういう形で連携して行くかは具体的なことにはなっていない。



かみのせき學苑祭 大人気のエコバッグ

# 町政のここが聞きたい

## 一般質問

12月定例会では3名の議員が4件の質問をしました。



山戸 孝 議員

**問** 中間貯蔵施設計画、何をもって判断するのか

**答** 民意を尊重して判断

### 質問

①中間貯蔵施設計画に周辺市町の首長から強い不信感が示されている。今後の連携に影響は。建設について周辺自治体の同意や協定が必要か。②電事連会長が共同利用について「将来的に可能性があるなら検討したい」と発言した。他の地域の核のゴミまで受け入れるのか。「なんでも関西電力のゴミまで」という

声もたいへん大きい。③建設の可否を決める議論にどれくらいの時間をかけるのか。議論の形は。建設の可否は何をもって判断するのか。

### 町長答弁

①影響があったと感じたことはなく今後も誠意をもって対応していく。同意や協定については述べる立場にない。②使用済燃料はゴミではなく資源。建設が可能になれば私の考えもしつかり申し上げる。③議論には十分時間をかける。視察や説明会を適時適切に開催していき住民にご理解いただいたうえで議論してもらいたい。建設の可否は民意を尊重した判断をしていく。民意はやはり議会。議員として議論を尽くして判断していきたい。

**問** 子供たちを違法薬物から守る教育を

**答** 今後学習の機会を設定していく

### 質問

スマートフォンやSNSの普及などを受け、若い世代にとって違法薬物や危険ドラッグとの距離感が近くなり、また周囲から可視化されにくい状況が生まれている。ネットリテラシー身に付けるなど教育のあり方もそれにしつかりと対応していく必要があると考える。保護者からは、子供たちに薬物の怖さをもっと厳しく教えてほしいという声もある。本町における違法薬物などについての子供たちへの教育の現状と今後についての考えは。

### 教育長答弁

最近の報道で大麻グミや市販薬の過剰摂取が若年層に広がっていることが大きな問題になっ

ている。本町の小中学校における薬物乱用防止教育は学校保健計画などにも位置付けており、講師を招き過剰摂取の恐ろしさや実際の事例をもとに誘われた時の断り方などを学ぶ授業を年1回実施している。ご家庭でも薬物の危険性についての会話がなされればと考える。今後学校教育の中でネットリテラシーや薬物について学習する機会を設定していく。



上関中学校での薬物乱用防止教室



秋山 鈴明 議員

### 問 町長のメディア発言を深掘りする

答  
厳しい町の現状を伝えた

### 質問

①「中間貯蔵施設調査を受け入れた背景を」という新聞の間に、町長は「半島の先の町に誰が来ますか」と答えた。町民主体で催しが企画されたり町も予算を取って観光や移住に取り組むなか首長が否定したように見える。真意を聞きたい。②財源がない、人口減が止まらないというが、本町はすでにのべ100億円以上の原発交付金や寄附金を得ている。それなのに財源がない、人口減が止まらないという状況をどう評価するか。

### 町長答弁

①新聞での発言は、調査受入れへの質問で、過疎高齢化による人口減少、商工業の衰退や財政状況のひっ迫、厳しい町の現状を伝えた中のひと言であって、こうした現状を変えなければいけないと考えてのことであった。②もし100億円が無かったらどうなっていたか考える必要がある。町税は歳入全体の5.8%しかない。住民サービスや日々の暮らしの支援は、他町より整備している。これがなければ、更に人口は減少していたかもしれない。必要なのは、目先ではなく、5年先、10年先を見据えた議論だ。



原発交付金事業施設



清水 康博 議員

### 問 中間貯蔵施設調査に対する中国電力の対応・周辺自治体の反応

答  
地方自治の原則  
町のことは町で決める

### 質問

①森林伐採作業の延期、周辺自治体への説明不足など中国電力の調査対応をどう評価するか。②周辺市町から上関町への苦言や、「周辺自治体の意見を反映させるべき」という県内首長の一定数の意見をどう受け止めるか。③町長は調査受入れの条件に「周辺市町に対しても適時適切に情報提供を行うこと」を挙げていたが現在その条件が満たされていないと言いが難い。周辺市町が納得するまで調査を進めないよう中電に要求する考えは。



中間貯蔵施設計画予定地

### 町長答弁

①調査は、事業者の判断によって行われるもの。私が評価することは控えさせていただく。②周辺自治体からの厳しい意見があることは承知している。中国電力には4つの条件を提示し、適切な対応を求めている。③事業者としては、早めに情報提供をしたかったと思う。相手の都合や諸般の事情で対応が遅れたと思う。周辺の理解がなければ調査を進めないという考えもあるが、地方自治の原則は町のことは町で決める。周辺市町に、そのことは理解いただきたい。

# 討論

## 基金設置条例の改正 に反対3名、賛成3名 が討論!

12月定例会の第一号議案、上関町基金設置条例の一部を改正する条例の制定について、反対・賛成討論が交わされました。

この条例は、上関町診療所施設設計基金・上関町総合計画策定基金を設置するためのもので、中間貯蔵施設に係る電源立地地域対策交付金を財源とするため、中間貯蔵施設への賛否もあり、各議員から意見が出されました。

採決の結果、賛成6名、反対3名の賛成多数で可決されました。

山戸議員

反対

中間貯蔵施設について町長が調査容認の判断をしたとしても、町全体の合意が取れたかという点は疑問。周辺自治体との関係もある。交付金を使うことが建設の既成事実化となり、冷静な議論にたどり着けなくなる懸念を強く持つ。中間貯蔵施設の交付金を使うために基金を設立するというこの議案については反対する。

秋山議員

反対

百億円以上の原発交付金や寄附金があっても、人口減や財政難は解決していない。原発立地自治体が原発に依存した財政になっていることが深刻な課題になっているという前例があるなか、本町においても中間貯蔵施設に関する交付金を得てさらに依存度を高めるのは、町長の公約「持続可能なまちづくり」と相容れない。よって反対する。

清水議員

反対

大前提として診療所を新しく建設するという事を反対しているという訳ではない。当初予算で過疎対策事業債という借金ではあるものの有益な財源を当てていたにもかかわらず、今回中間貯蔵施設の交付金をその建設に充てることに反対。

今回の条例の制定は、新たに上

関町診療所施設設計基金・上関町総合計画策定基金の設置だが、当町においては厳しい財政状況の中で原子力財源を有効活用し、住民の暮らしの安心安全を支えるため、町民のための診療所建設に向けた基金の設置である。第1号議案に賛成する。

海下議員

賛成

診療所の現状を考えれば、診療

所施設の設計は必要な事業である。総合計画も町民共通の目標、長期的展望、その実現に向けた計画であり、町づくりには必要な事業である。いずれも、町民生活のためには欠かすことのできない事業であり、基金設置条例の一部を改正する条例に賛成する。

柏田議員

賛成

まだ中間貯蔵施設自体の判断

をしない段階で交付金を活用することについての賛否があるかもしれないが、当町においては、調査・検討することについては、8月18日に了承しており、調査が開始されれば制度上交付金の交付が可能となっている。財政難の当町にとって有効に活用すべきであり、議案第1号に賛成する。

古泉議員

賛成

反対!!

# 討論で激論!

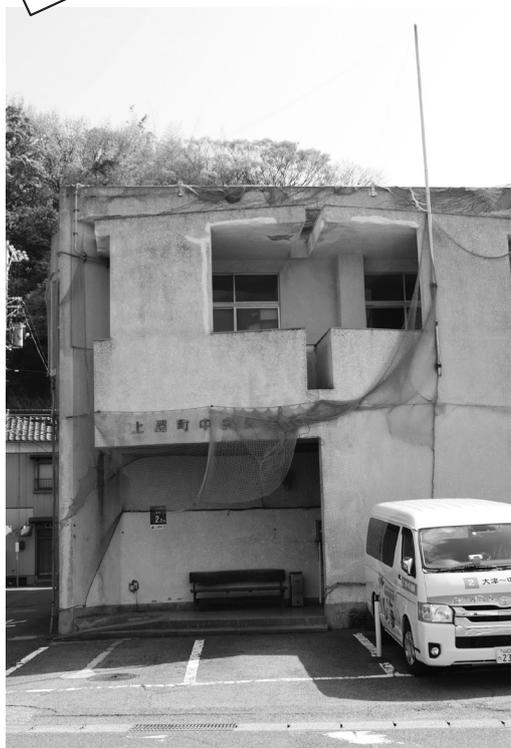
賛成!!

**中間貯蔵施設に係る交付金を含む一般会計補正予算に、反対3名、賛成3名が討論!**

12月定例会では第3号議案となる令和5年度上関町一般会計補正予算(第4号)についても賛成、反対討論が交わされました。

この補正予算では、中間貯蔵施設に係る電源立地地域対策交付金を財源とする事業が予算計上されており、事業の是非よりも中間貯蔵施設に係る交付金を財源とすることに焦点があたり、各議員それぞれの立場から反対、賛成の意見が出され、白熱した議論となりました。

採決の結果、賛成6名、反対3名の賛成多数で可決されました。



跡地に診療所建設計画のある旧中央公民館

反対



山戸 孝 議員

質疑もさせていただいたが、やはり住民の分断を招く形での財源の使い方はやるべきではないと考える。そもそも調査段階ですら交付金が下りるという国の制度が、財源の少ない当町のような自治体を狙い撃ちにして地域の混乱や分断を招いている事態に強い憤りを覚える。そのことを申し添えてこの議案に反対する。

賛成



海下竜一郎 議員

今回の財源振替は、反対される方は財源に問題があると言われていている気がする。今まで町は、原子力財源を活用し暮らしや住民サービスをしっかりと支えてきたと思う。そうした中で今回も原子力財源を有効活用し、財源振替を行ったと思う。今回の補正予算に賛成する。

## 反対



秋山 鈴明 議員

交付金の活用という  
が、実態は活用ではなく  
依存である。本来自力で  
稼げるまちを目指さなけ  
ればいけないのに、原子  
力や中間貯蔵施設に関す  
る交付金にますます依存  
しようとしている。こう  
いった交付金は長く続く  
ものではなく、自力で稼  
げないという課題をただ  
先送りしているだけであ  
り数十年先の町財政を危  
惧する。よって反対する。

財政が厳しい当町にと  
って、過疎債により行お  
うとしていた診療所事業  
を、中間貯蔵施設の初期  
対策交付金で賄うこと  
で、町債をできるだけ少  
なくすることができると  
中間貯蔵施設という国策  
に協力し、その交付金を  
活用し、町民が安心して  
暮らせる町にしていく必  
要がある。交付金を有意  
義に活用した補正予算に  
賛成する。



柏田 真一 議員

## 賛成

## 反対



清水 康博 議員

診療所建設に伴う旧中  
央公民館の解体費用は当  
初予算では過疎債で予算  
計上されていたが交付金  
を財源振替。この交付金  
で町をこういうふうにし  
たい、こうやって回復さ  
せていくんだというビジ  
ョンもなく、今回のよう  
な活用方法であると原子  
力への依存度をさらに高  
めていくだけではないか  
と危惧する。

今回の交付金は、初期  
対策交付金ということ  
で、それを有効に活用す  
ることは何ら問題ないと  
思う。また、財政難の当  
町にとっては、有効に活  
用すべきだと思う。診療  
所の基金について、現在  
上関町は、診療所以外の  
医院はない。いち早く医  
療の充実が必要だと思  
う。よって、この一般会  
計補正予算に賛成する。



古泉 直紀 議員

## 賛成

中間貯蔵施設計画についての中国電力による上関町議会への説明会は議会内でも開催について議論が交わされ、賛成6・反対3での可決となりました。(追記：中国電力による説明会は、令和6年1月9日に開催)

## 柏田議員

異議なし

中間貯蔵施設の説明会に対する反対意見が出ているが、中間貯蔵施設の調査を受け入れた当町の議会が未だ正式な説明を受けていない。8月14日に予定していた説明会が妨害行為により中止になったとはいえ、住民代表という議員の立場で1日も早く中国電力からの説明を冷静な判断ができる場で受けたい。

## 清水議員

異議あり

議長から説明会を聞く意図の説明があつたが、納得のできるものではなかった。また『中国電力が上関町議会に対して説明をいたしました』という既成事実づくりにしかなり得ないのではないかと危惧する。説明会の公開、質疑応答を時間制限なく設ける、という条件であれば説明を受けてもよいとは思いますが、現時点でその確約はとれていないため反対。

## 海下議員

異議なし

今回の議員派遣の件ということで中間貯蔵施設についての説明会、内容については中間貯蔵施設についての知見を深めるとある。今後議会の中で熟議を重ねる上で全議員が同じ知識を得て、同じテーブル上で今後協議ができるための機会だ。この議員派遣の件について賛成する。

# 議員派遣に異議！！

異議あり

対馬市は、核ゴミ最終処分場の調査受け入れについて、市民の合意形成が不十分という理由で事を進めなかった。上関町内でもさまざまな立場の町民がいることを認識した上で、議長は中立公正でなければならぬ。今、議会が進んで説明会を受けられるほどの町民の合意形成は十分ではなく、分断や議会不信につながりかねないので説明会の開催に異議を申す。

## 秋山議員

異議なし

中間貯蔵施設の説明会は、開いてほしい。議員の皆様が、賛成反対であっても中国電力の説明を聞き、自分で納得して反対すればいい。町が中間貯蔵施設が立地可能かどうか調査して欲しいとお願ひしているので、中間貯蔵施設とはどのようなものか勉強してほしい。今、伊方町にも中間貯蔵施設が建設中である。

## 右田議員

異議あり

中電の説明会については質疑応答の時間や公開の是非について、議会の中でも議論が着地していない。派遣場所も期間も未定、内容についても意見が統一されていないのに、とにかく説明会の開催だけは決めてしまおうというのは乱暴だ。今回の問題においては賛否ももちろんだが、執行部も議会もまずは公正さを厳に意識をしていくべき。このようなやり方には異議を申し立てる。

## 山戸議員

# 柳井地域水道事業の統合に関する基本協定書（案）

柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町、田布施平生水道企業団及び柳井地域広域水道企業団は、水道事業の統合について、次のとおり基本協定を締結する。

（統合の目的）

第1条 健全な経営基盤を確立し、地方公共団体の責務として、安全・安心な水道水を適切な料金で将来にわたり持続的に供給できる水道システムを構築することを統合の目的とする。

（統合の期日）

第3条 水道事業の統合の期日は、令和7年4月1日とする。

（経営の主体）

第5条 経営の主体は、柳井市地域広域水道企業団とする。

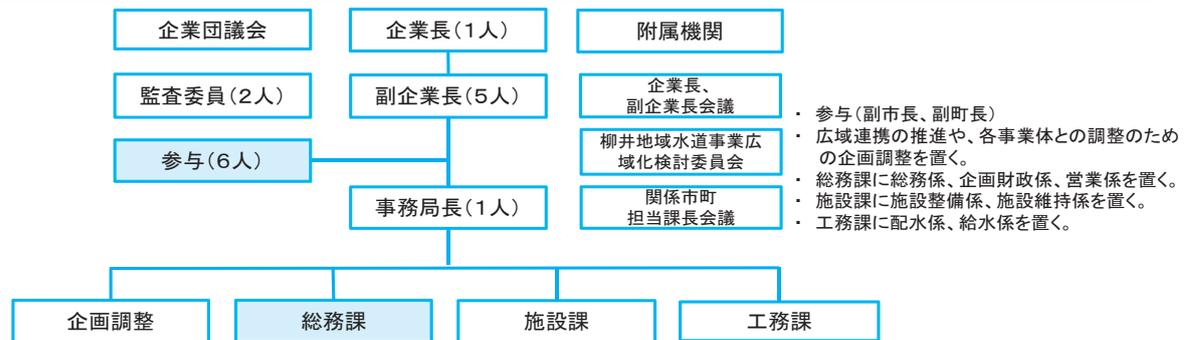
## 2-1 広域化の骨格について

### (1) 新たな企業団組織と庁舎について

- 主たる事務所は柳井市南町一丁目10番2号に置く。〈具体的には、柳井市役所庁舎内とする。〉

※主たる事務所とは、事業活動の中心として全ての事業を総括する事務所をいう。

- 組織機関は下記の通り。



- ・ 参与(副市長、副町長)
- ・ 広域連携の推進や、各事業体との調整のための企画調整を置く。
- ・ 総務課に総務係、企画財政係、営業係を置く。
- ・ 施設課に施設整備係、施設維持係を置く。
- ・ 工務課に配水係、給水係を置く。

### ○ 職員

- ・ 職員数の上限を定める条例上の定数は40人とする。
- ・ 事業開始から当分の間、企業団職員に加え、関係市町からの派遣で対応する。
- ・ 人材の計画的な育成や確保を目指すため、新たな職員採用の実施を検討する。

図1

## 2-2 広域化の骨格について

### (2) 市町との連携

水道法 第6条第2項

水道事業は、原則として市町村が経営するものとし、市町村以外の者は、給水しようとする区域をその区域に含む市町村の同意を得た場合に限り、水道事業を経営することができるものとする。

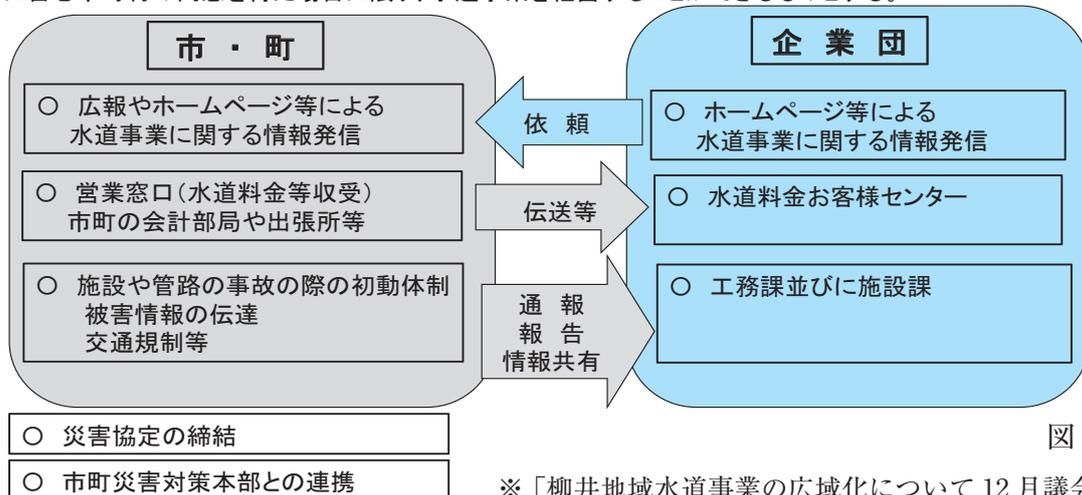


図2

※「柳井地域水道事業の広域化について12月議会資料」より

## 常任委員会視察研修報告

令和5年10月31日から11月1日にかけて岡山県西粟倉村の庁舎で担当課からローカルベンチャー（地方での起業）について同村の事業者である(株)エーゼログループでジビエやウナギの養殖などの事業及び起業支援などについての視察研修を行いました。西粟倉村は岡山県と鳥取県の県境にある林業を主とした村で人口は令和5年3月時点で1355人、高齢化率37.9%、人口のうち約17%が移住者です。「百年の森林（もり）構想」

同村では2004年の合併協議離脱後、まちづくりについて改めて議論・協議を重ね、「百年の森林構想」というまちづくりの方向性を規定する大きな柱を立てました。人口減少に対しては積極的に外部人材を呼び込むことで解消をはかり、現在、地域創生やローカルベンチャー、多くの移住者受け入れなどについて全国的な注目を集めています。

またローカルベンチャーの方向性として「100億円の企業誘致より1億円のローカルベンチャー100社」という方針を掲げています。

50名の地域おこし協力隊

地域おこし協力隊は現在約50名が赴任しており平均年齢は20代後半、来年度は70名程度になる見込みとのことです。西粟倉村の協力隊は、①起業型、②企業研修型、③行政連携型の3種類の募集がされています。①の協力隊員が起業し、②の協力隊員が村内のローカルベンチャーである事業者へ派遣され新たな



西粟倉村役場でローカルベンチャーについて

人材として活躍することで、民の事業の活性化と人手不足の解消、人口減少に歯止めをかけるなどの効果が出ています。

地域の資源を活かした事業

民のカギとなっている(株)エーゼログループではコンサル事業を行うだけでなく事業の実践まで手掛けています。ジビエ事業では厄介者のシカを地域の資源に変え、またゴミであった廃材や木くずなどを熱源にして養殖事業を行うなど、地域の資源をとにかく活かしきるとともに、ブランド価値を高めるためのストーリーを大切にするなど、人と人、人と地域のつながりまでを含めて事業として捉えています。

視察を終えて

視察研修後の議員間の意見交換の中では、

- 協力隊の受け入れにもメリットデメリットがある
- 自分の住む町に自信を持ち、生き生きと活動されていた
- 外部の人が共感できるビジョンを描けたことが要因では



旧体育館を活用したウナギの養殖事業

- 上関町も、まちづくりのコンセプトを明確にするべき
- リーダー的存在が必要なのはどこも同じ、やはり人づくりが大事

といった意見が出されました。

海と山の違いはあれど上関町に重なる部分も多く、人材の確保及び育成、起業による地域の課題解決と民の活用など、今後の上関町のまちづくりに活かせる視点が多く得られた視察研修であったことを報告いたします。

# 議長あいさつ

町民の皆様には平素より町議会に対し、ご理解とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。本町は「過疎化」「少子高齢化」が山口県で一番進んでいます。財政状況も年々厳しい状況になっています。

議会は多様化する住民のニーズに 대응するため、町民に寄り添い「議員活動」に取り組む所存です。皆様にも町の現状をご理解いただきご協力をお願いいたします。

議長 岩木和美

## 議会活動報告

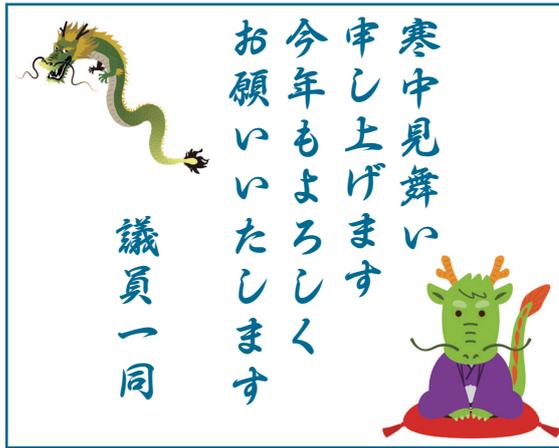
(令和5年9月15日～令和5年12月13日)

月日	内容(場所・出席者・参加者)
9月27日	柳井地域広域水道企業団議会第1回臨時会(柳井市:山戸)
"	月例出納検査(海下)
9月28日	山口県町議会議長会第1回臨時会(山口市:議長)
9月29日	議会広報委員会(山谷:海下・古泉・右田・山戸)
10月4日	議会広報委員会(山谷:古泉・右田・山戸)
10月13日	議会広報委員会(山谷:海下・古泉・右田・山戸)
10月17日	議会広報委員会(山谷:海下・古泉・山戸)
10月25日	熊毛郡町議会議員合同研修大会(平生町:全議員)
10月26日	山口県商工会大会(山口市:議長)
"	月例出納検査(海下)
10月31日	P14 常任委員会視察研修(岡山県:岩木・山谷・秋山・海下・柏田・古泉・清水・右田・山戸)
11月2日	山口県町議会議長会定例会(山口市:議長)
11月7日	P16 熊毛郡広報連絡協議会視察研修(海田町:山谷・海下・古泉・右田・山戸)
11月14日	人権学習講座(岩木・秋山・海下・柏田・古泉・清水・右田・山戸)
11月24日	第2回臨時会(全議員)
"	議会運営委員会(山村:右田・海下・古泉・山戸・岩木)
"	P13 柳井広域水道説明会(柳井市:全議員)
11月28日	離島振興市町村議会議長全国大会(東京都:岩木)
11月29日	町村議会議長全国大会(東京都:岩木)
12月1日	月例出納検査(海下)
12月6日	第4回定例会本会議(岩木・山谷・秋山・海下・柏田・古泉・清水・右田・山戸)
12月7日	全員協議会(岩木・山谷・秋山・海下・柏田・古泉・清水・右田・山戸)
12月8日	産業厚生常任委員会(山戸:海下・清水・山谷・岩木)
"	総務文教常任委員会(右田・古泉・秋山・柏田・岩木)
12月12日	第4回定例会本会議(岩木・山谷・秋山・海下・柏田・古泉・清水・右田・山戸)
"	全員協議会(岩木・山谷・秋山・海下・柏田・古泉・清水・右田・山戸)
12月13日	第4回定例会本会議(岩木・山谷・秋山・海下・柏田・古泉・清水・右田・山戸)
"	議会運営委員会(右田・海下・古泉・山戸・岩木)

# 熊毛郡議会広報連絡協議会視察研修

11月7日、熊毛郡議会広報連絡協議会は広島県海田町へ研修に伺いました。海田町も新庁舎が竣工されたばかりの3階建ての立派な建物でした。研修では町民の皆さん方に、「よりわかり

やすく」「読みやすい」「読んでいただける」広報誌を一日も早く仕上げることに、余白の使い方、町民の方からの希望、要望など投稿のない時の打開策などを研修させていただきました。



## 要

令和6年度商工助成に係る要望について

上関町商工会

会長 濱田 憲昭



## 望

令和6年度町予算編成に際しての観光協会助成について

上関町観光協会

会長 濱田 憲昭

## 陳情・お願い

### 陳情

- ・上関町中間貯蔵施設建設調査受け入れに関する陳情
- 上関に原子力施設はいらない兵庫の会
- 世話人 小野 純一

- ・「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書
- 柳井地域労働組合総連合

議長 田中 正明

山口県労働組合総連合  
議長 石田 高士

### お願い

- ・学校教材備品の計画的な整備推進についてのお願
- 一般社団法人 日本教材備品協会
- 会長 大久保 昇

## 編集集

元日から能登半島で地震が発生し立て続けに航空事故、大規模火災と続き地震は日を追うごとに被害が大きく広がって甚災となり今年、どんな年になるのか。何も起こらなければいいのだが。災害や事故、火災で亡くなられた方々に心よりお悔やみを申しあげますと同時に被災された皆様方に御見舞を申し上げ一日も早い復興を願うばかりです。

そんな中、我が町では現在、財源確保のため中間貯蔵施設建設をという問題が持ち上がっており、賛否両論ある中で町民の皆様には十分に内容の説明を聞いていただき

## 後記

理解をいただいた上で、御判断していただければと思っております。

議会調査	特別委員	広報委員	聴取委員
〃	〃	委員	委員長
山戸 孝	右田千賀子	古泉 直紀	山下 良数
		海下竜一郎	

皆様方のご意見・想い・投稿などお待ちしております。

次回定例会の初日は  
3月6日(水)の予定です。